

ごあいさつ

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、心から感謝申し上げます。

ここに、令和3年度の決算報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

令和3年度のわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言等が発令され、飲食業や観光業を中心に経済活動が大幅に制約されたことにより厳しい状況が続きました。9月末には緊急事態宣言が解除されたことから経済活動の正常化に向けて明るい兆しが見えてきましたが、年明けには新たな変異株の出現により感染が再拡大したため、企業を取り巻く環境は極めて厳しい状況が続きました。さらに、世界的な半導体・原材料部品の供給不足の中で、資源価格も高騰し、2月下旬にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が開始されたことにより、エネルギー価格の急騰や食料品価格の上昇が顕著になり、資源輸入国である日本の経済に大きな影響が始めました。



特に当金庫の主要な取引先である中小企業・小規模事業者においては、経営者の高齢化や後継者難、慢性的な人手不足といった構造的問題に加え、新型コロナウイルス感染症により人や物の移動が制限されたことで、経済活動の停滞や事業環境の激変を招き、大きな困難に直面いたしました。

令和3年度の事業につきましては、今年度より新しくスタートしました長期計画「めぐろチャレンジ100年Stride2021～Sure・Speed・Synergy」の基本的理念「創業100年に向けて力強く踏み出し「半径500m」を磨き上げる」のスタートの年度として、地域社会の発展に奉仕するという基本方針を再認識し、地域のお客さまに「感謝」の気持ちを強く持って、業務運営に積極的に取り組んでまいりました。

また、業務の健全性・適切性を確保するための態勢整備に係る「内部管理基本方針」のもと、コンプライアンス態勢の充実・強化を図ると共に、地域金融機関として身の丈に合った本業に集中し、お客さま・地域に信頼される健全性・確実性の確保および最大限の機動力を発揮してお客さま満足度やサービスの向上に努め、お客さま本位の営業を推進してまいりました。

当期の業績は、預積金残高は前期比3,192百万円増加の190,284百万円とすることができ、また、貸出金残高については新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業先支援を引き続き行い、91百万円増加の101,193百万円とすることができました。定期積金契約高は、前期比25百万円増加の48,102百万円となりました。

利益面では、低金利環境が続くなか本業重視の営業活動に注力し、経常利益380百万円(前期比29百万円減少)、当期純利益で255百万円(前期比38百万円減少)を計上することができました。

なお、自己資本比率につきましては、順調な利益確保による自己資本の充実により11.06%となり、引き続き健全性を維持することができました。

令和4年度のわが国経済は、新型コロナウイルスの感染状況とロシアを巡る地政学リスクの顕在化により、先行きが見通しにくい状況にあります。

企業業績は、ポストコロナをにらんで各種資源への需要急回復が供給不足や価格高騰を招来するなか、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を発端とした原油や食料品といった資源価格の高騰は企業収益の下押し要因となります。このような中、当金庫の主要な取引先である中小企業・小規模事業者においてもポストコロナを見据えた経営環境の変化への対応や、円安の進行と物価高で厳しい状況が続くものと考えられます。

当金庫におきましては、地域経済の発展のため、お取引先中小企業・小規模事業者が持つ技術力や将来性を重視した事業性評価に基づく融資・コンサルティング機能の一層の取り組み強化を図るとともに、金融仲介機能の更なる質の向上に向け、顧客ニーズを的確に捉えた商品やサービスをタイムリーかつスピーディーに供給することに努めてまいります。

お取引先が抱える様々な課題の解決に取り組み、地域の成長・発展に貢献する一層の努力と積極的な取り組みにより、中小企業・小規模事業者、個人・地域に対する支援に向け全力で取り組んでいく方針です。

さらに、環境問題、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策、反社会的勢力への対応や一向に減らない特殊詐欺への対応、また、コンプライアンス・リスク管理態勢および顧客サポート態勢の一層の充実により、当金庫がこれまで築き上げてきた「信用」「信頼」をさらに強いものにし、地域のお客さまに「毎日感謝」の気持ちを持ち、地域金融機関としての社会的使命・役割を充分に発揮していく所存であります。

令和4年7月

理事長 矢部甲子